

公認内部監査人



Certified  
Internal  
Auditor



# 公認内部監査人(CIA) Part I／第4回

※アビタスCIA本講座講義資料のため、MUFG CIA受験対策講座の実施回と異なります。

### 3-8 專門的能力

内部監査人は、職務を遂行するために必要な知識、スキル、及び能力を有するか獲得することが求められる。各内部監査人は継続的に専門的能力を開発し、適用する責任を負い、CAEは部門全体の専門的能力を確保する責任を負う。本Unit以降で、内部監査人に必要とされる専門的能力やその能力の継続的な開発について、学習する。



## 基準

### 原則3 専門的能力の発揮

内部監査人は、自らの役割と責任をうまく果たすために、知識、スキル及び能力を適用する。

専門的能力を実践により示すには、内部監査業務を提供するための知識、スキル及び能力を開発し、適用することが求められる。内部監査人は多様な業務を提供することから、各々の内部監査人に必要とされる専門的能力は異なる。内部監査人は、業務を遂行するために必要な専門的能力を保有又は獲得することに加え、専門的能力の開発を追求することにより、業務の有効性と品質を向上させる。

**要求事項****P80**

内部監査人は、その職務を成功裏に遂行するための知識、スキル及び専門的能力を有しているか、又は獲得しなければならない。要求される専門的能力には、内部監査人の経験レベルにふさわしい職務上の地位と責任に見合った知識、スキル及び能力が含まれる。内部監査人は、IIA の「グローバル内部監査基準」に関する知識を有しているか、又は身につけるようにしなければならない。

内部監査人は、業務遂行のために必要な専門的能力を有する又は獲得できる業務にのみに従事しなければならない。

各内部監査人は、専門職としての責任を果たすために必要な専門的能力を継続的に開発し、適用する責任を負う。さらに、内部監査部門長は、内部監査部門が、内部監査基本規程に記載された内部監査業務を実施するための専門的能力を部門総体として備えていることを確実なものとしなければならず、又は必要な専門的能力を獲得しなければならない（基準 7.2（内部監査部門長の適格性）及び基準 10.2（人的資源の管理）も参照のこと）。

## **実施に当たって考慮すべき事項の要旨**

内部監査人は、以下のような専門的能力を開発すべきである。

- コミュニケーション及び協働
- ガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロールの各プロセス
- 財務管理や情報技術などのビジネス機能 **会計やITの知識(Part II)**
- 不正などの蔓延するリスク **Chapter 7**
- データの収集、分析及び評価のためのツールとテクニック **データアナリティクス(Part II)**
- 様々な経済的、環境的、法的、政治的及び社会的状況によるリスクと潜在的影響
- 組織体、セクター及び業界に関連する法令、規制及び慣行
- 組織体や内部監査に関連する傾向及び新たな課題
- 監督及びリーダーシップ

専門的能力を開発し発揮するために、内部監査人は、次のことを行うことがある。

- 公認内部監査人の称号、及びその他の資格など、適切な専門職の資格認定を取得すること **CIA資格取得**
  - ステークホルダー、同僚及び監督者からのフィードバックに基づき、改善の機会及び開発が必要な専門的能力を識別すること
- 内部監査の手法だけでなく、組織体に関連する事業活動についても、関連する研修を受けること – 研修の機会には、教育コースに登録すること、メンターと一緒に働くこと、又は個々の内部監査業務中に監督下で新しい作業を割り当てられることが含まれる

### 研修の参加

内部監査人は、各自の専門的能力の開発を確実なものとする責任があり、各自のスキルや開発の機会を評価することがある。

一方、CAEは、内部監査人の専門的能力の開発を支援すべきである。CAEは、専門的能力の開発に関する最低限の期待事項を定め、専門的な認定の取得を奨励すべきである。CAEは、内部監査の予算に研修及び専門的能力の開発のための資金を含めるべきであり、内部及び外部の機会を、継続的専門教育、研修及びコンファレンスを通じて提供すべきである。

## 適合していることの証拠の例

- 内部監査人の資格、学歴、経験、職歴、及びその他の適格性を記載した文書
  - 内部監査人の専門的能力に関する自己評価と専門的能力の開発計画
- 内部監査人が、コース、コンファレンス・セッション、ワークショップ及びセミナーなどの継続的専専門教育を修了したことを示す文書
  - 内部監査人のパフォーマンス・レビューの記録
  - 個々の内部監査業務の監督レビューに関する文書、内部監査のステークホルダーが記入した個々の内部監査業務後のサーベイ、並びに個々の内部監査人及び内部監査部門が発揮する専門的能力を示す他の形態のフィードバック
- 品質の内部評価及び外部評価の結果
  - 内部監査の計画を達成するために必要な関連する専門的能力、監査資源のギャップの分析、並びにそのギャップを埋めるために必要な研修及び予算の識別に関する文書
  - 内部監査部門が依拠する可能性のあるアシュアランス業務及びアドバイザリー業務の他のプロバイダの専門的能力を示す、アシュアランス・マップなどの文書

## 内部監査人に求められる知識、スキル、能力の適用

内部監査人は、内部監査部門の役割を果たすため、以下のような知識、スキル、能力を適用し、組織のリスク管理、ガバナンス及びコントロールプロセスの改善を支援することが求められている。

①	批判的思考と問題解決スキル	複雑な問題に直面した際に、情報を慎重に分析し、根本原因を特定するための批判的思考力を発揮することが求められる。問題を多角的に捉え、既存の枠組みを超えた革新的な解決策を導き出す能力は、組織体のリスク・マネジメント体制やコントロールの改善に不可欠である。
②	リサーチスキル	内部監査業務において、幅広いリソースから正確な情報を収集し、監査対象に関するトピックの知識を深めることが重要である。特に、新たな課題や業界動向を理解するためには、リサーチスキルを活用して信頼性のあるデータや洞察を得る必要がある。
③	説得力と交渉スキル	内部監査の実施において、ステークホルダー間で発生する意見の相違やコンフリクトを管理し、最善の結果を引き出すことが求められる。説得力をもって自らの主張を伝え、交渉を通じて合意を形成し、円滑な監査業務の遂行を支える。
④	関係構築スキル	内部監査の効果を最大化するためには、チームメンバーやステークホルダーと信頼関係を築くことが重要である。信頼は、監査活動の透明性や客観性を担保し、組織体内での監査結果の受け入れやすさを高める。

<p>⑤ チェンジマネジメントスキル</p>	<p>組織体の環境は常に変化しており、その変化に適応するためには柔軟な姿勢が求められる。チェンジマネジメントスキルを活用し、変革への適応力を高めることで、組織体内のガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロールの各プロセスをより効果的に支援できる。</p>
<p>⑥ 好奇心の発揮</p>	<p>内部監査人としての専門知識を深化させるためには、好奇心を持って常に新しい情報を探求する姿勢が不可欠である。</p>
<p>⑦ 書面及び口頭のコミュニケーションスキル</p>	<p>情報を明確かつ効果的に伝えるために、書面及び口頭のコミュニケーションスキルを活用する必要がある。これにより、監査結果や提案が理解され、ステークホルダーとの協力が促進される。適切なコミュニケーションは、信頼関係の構築にも寄与する</p>
<p>⑧ 継続的な専門能力開発の追求</p>	<p>内部監査人は、専門能力の継続的な開発が必要となる状況を見極め、自己の専門性を高める取り組みを行わなければならない。これにより、業界の変化に適応し、最新の知識や技術を維持することができる。継続的な学習は、内部監査の質を向上させる重要な要素である。</p>

### **3-10 外部専門家の利用**

## **外部専門家の利用**

内部監査人が内部監査業務を実施するために必要な専門的能力に欠けている場合、  
CAEは内部監査を支援する外部のサービス・プロバイダ等を活用する。

外部専門家の利用について、グローバル内部監査基準においては、幾つかの基準にまたがって記載されており、その概要は以下の通りである。

基準	要求事項	考慮すべき事項
基準6.1 内部監査への負託事項	内部及び外部のプロバイダと互いの役割と責任について理解を得る	
基準9.3 手法		内部及び外部のアシュアラント・プロバイダとの連携の文書化  外部のサービス・プロバイダを利用する場合、その管理の文書化
基準9.5 連携と依拠	他のアシュアランス業務のプロバイダの業務に依拠する場合	プロバイダの役割、責任、組織上の独立性、専門的能力、客観性、及び正当な注意
基準10.1 財務的資源の管理		内部監査をアウトソースする場合の予算の承認
基準11.1 ステークホルダーとの関係構築とコミュニケーション	内部及び外部のプロバイダを含む主要なステークホルダーと、関係及び信頼を構築する方法を作り出す	

〈外部サービス・プロバイダの能力、独立性、及び客觀性の評価のまとめ〉

能力の評価に際しての考慮事項	独立性及び客觀性の評価に際しての考慮事項
<ul style="list-style-type: none"><li>• 関連する専門分野における専門的認証や免許</li><li>• 適切な専門職組織の会員であること</li><li>• 評判</li><li>• 業務委託を検討している分野における経験</li><li>• 専門分野における教育及び訓練の程度</li><li>• 業界に関する知識及び経験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 当該組織体との財務上の利害関係</li><li>• 取締役会、最高経営者又は組織体内のその他の人物との、個人的又は専門職としての関係</li><li>• 過去に有していたかもしれない、当該組織体との関係又はレビュー対象の活動との関係</li><li>• 当該組織体のために現在実施しているかもしれない他のサービス業務の範囲</li><li>• 受領しているかもしれない報酬又はその他のインセンティブ</li></ul>

# 内部監査人に求められる知識、スキル、能力の適用

- ① 最適な手法の選択
- ③ 監査対象部門と2つの報告経路先
- ⑤ 時の経過と共に変化するリスクやトピックに適応するスキル
- ⑦ 職階に関係なく求められるスキル
- ⑧ CIA資格取得後は毎年CPE単位が必要

# 本日の論点

---

- ◆ 専門的能力
- ◆ 専門職としての正当な注意
- ◆ 秘密の保持

Chapter 3

◎ 5, 6, 13

講義アンケートにご協力をお願いいたします



お手持ちのスマートフォン/タブレットにて  
上記QRコードを読み取ってください